



### 初開催！英国多文化コミュニティ政策交流プログラム

(一財)自治体国際化協会ロンドン事務所 所長補佐 畑 航平 (神戸市派遣)

#### プログラムの概要

クエアロンドン事務所では、7月3日から8日にかけて、地方公共団体や地域国際化協会の職員などを対象に、「英国多文化コミュニティ政策交流プログラム」を実施しました。本プログラムは、歴史的に数多くの移民を受け入れてきた英国において、先進的な多文化共生施策が展開される現場の視察や関係者との意見交換などを通じて、参加者に知見を得ていただくことで、日本の自治体などにおける多文化共生施策の企画立案などに寄与することを目的に、今年度より新たに開催したものです。

初開催となる今年度は、東京都などの自治体関係職員を3名、地域国際化協会や一般財団法人などの職員を3名、計6名を迎えて実施しました。

6日間のプログラムの初日には、多文化社会研究会の理事を務められる大山彩子氏をお招きしてオリエンテーションを開催し、英国の多文化共生政策の概要について解説いただきました。その後、下表のとおり英国政府や

#### 〈スケジュール〉

1日目	・オリエンテーション ・Islington区 (ロンドン市の行政区)
2日目	・グレーターマンチェスター合同行政機構 (マンチェスター市などの10の市を包含する地方政府) ・マンチェスター市 (イングランド北部の都市)
3日目	・The Faith and Belief Forum (宗教に焦点を当てたNGO団体) ・Our Lady and St George's Catholic Primary and Nursery School (生徒のうち40%以上が黒人またはそのルーツを持つ多様性に富んだ学校)
4日目	・英国政府 レベリングアップ・住宅・コミュニティ省 (地域活性化・住宅・地方自治などを担当) ・Waltham Forest区 (ロンドン市の行政区)
5日目	・Migration Work CIC (移民分野専門のコンサルティング団体) ・移民博物館 (政府などの補助金で運営される博物館)
6日目	・意見交換会

地方政府、ロンドンの行政区や博物館、学校に至るまで、非常にバラエティに富んだ9つの機関を訪問しました。

各訪問を終えたのち、最終日には意見交換会を開催し、プログラムを通じた学びと、その学びをどのように組織に活かすかについて、参加者間で共有いただきました。

ここでは以下のとおり、英国政府およびロンドン市内のWaltham Forest区の取り組みについてご紹介いたします。

#### 英国政府の取り組み

プログラム4日目に、英国政府のレベリングアップ・住宅・コミュニティ省を訪問しました。この省では、レベリングアップと呼ばれる地方活性化政策、住宅政策、地方自治を担当しています。加えて、他省をリードする形で、社会的統合関連施策として、難民の受け入れ業務や地域や信仰コミュニティの支援、他言語話者向け英語教育、地域統合プログラム(社会統合の取り組み強化地域を指定・支援する事業)を実施しています。

訪問において、現在作成中である社会統合に関する報告書と、難民受け入れ施策についてご紹介いただきました。

#### 〈社会統合に関する報告書〉

2016年に、英国内の社会的統合に関する状況が、政府が目指す姿と乖離している旨の問題提起がありました。これを踏まえて、政府は住民・関連団体・専門家に対する大規模な意見聴取などを進めており、今秋、包括的な報告書を公表予定です。そこには、英国における社会統合を推進するために解決すべき重要な課題として「社会統合を推進するための国家的枠組み・戦略の欠如」「社会的結束を弱めようとする存在」「認識されず、支援されない被害者がいること」「地方自治体や公的機関の能力、支援、説明責任の欠如」「社会的結束と強いコミュ

ニティの構築」が挙げられる見込みであるとのことです。

### 〈難民受け入れ施策〉

英国政府は、世界中からさまざまな背景を持った方を受け入れることで多様性に富んだ社会になると考えていることから、「言語」「雇用」「文化の相互理解」「ボランティア団体の活動支援」を軸に難民を支援しています。直近の例としては、ウクライナ侵攻発生後、17万5,000人以上の避難民を受け入れています。受け入れに際して構築した、英国内の一般市民、慈善団体や民間企業などが、ウクライナ人に対して居住スペースを提供する「Homes for Ukraine」という支援策について説明いただきました。



英国政府訪問時の様子

## Waltham Forest 区の取り組み

ロンドン市に32存在する行政区の1つであり、市の北東部に位置するWaltham Forest区を訪問しました。この区の人口は約27万8,000人であり、その半数以上が黒人、アジア系、その他少数民族によって構成されている、非常に多様性に富む地域です。訪問では、当区が積極的に取り組んでいるヘイトクライム（マイノリティに対する犯罪）対策と、孤立者対策としてのコミュニティ・リビングルーム事業をご紹介します。

### 〈ヘイトクライム対策〉

2019年にロンドン市内でヘイトクライムが多発したことを受け、当区は先陣を切って対策に乗り出すことを決定し、ヘイトクライムの現状を把握するとともに、ヘイトクライムに関する市民集会を開催し、対策を協議しました。現在は、街でヘイトクライムを発見した際に、傍観者として見過ごすのではなく、自身に危険が及ばない形で犯罪を食い止めるための方法を伝える研修（Bystander training）を実施しています。この研修の受講者数は既に1,200名を超えており、今後もより多くの方に伝えていく予定であるとのことです。

### 〈コミュニティ・リビングルーム事業〉

この事業は、区の補助金をもとに慈善団体によって運営される孤立者対策であり、その一例である区内のパブを訪問しました。このパブでは、慈善団体とパブのオーナーが協力し、週に2日、パブがコミュニティセンターとして開放され、訪問者に温かい飲み物や食事を提供し、カラオケやゲームなどの催しを開催しています。

本事業は、暗くて寒く、社交の場が少なくなりがちである冬季限定として始まったものの、大きな反響があったことから、現在は通年で実施しているようです。コミュニティ・リビングルームは区内の18箇所で開催され、パブの他には教会や図書館などが活用されており、場所や建物の性質を踏まえ、特徴に応じたサービスを提供しているとのことです。

英国の代名詞ともいえるパブで開催され、区の居住者に限らず誰でも温かく迎え入れられる事業に、「英国らしさ」を感じずにはいられない訪問となりました。



コミュニティ・リビングルームが運営されているパブを訪問

## おわりに

参加者からは、「見て、聞いて、情報交換することができる素晴らしい体験型のプログラムであった」「滞在中に都市の実際の姿を見ることができ、多文化共生にとどまらず、生涯にわたってさまざまな分野に活かせる財産となった」などの感想をいただきました。ウェブサイト、各機関の訪問に関する報告書を掲載していますので、是非、URLまたは二次元コードでアクセスしてご覧ください。



<https://www.clair.or.jp/j/multiculture/jiam/ukprogramme.html>